



Tomotaka Osumi 大角 知孝

Intake 2012, Full-Time

President of Tech Club 2012-13, VP of Japan Club 2012-13

前職: アプリケーションエンジニア, IT/通信キャリア

プロフィール紹介

通信キャリアにて2年間国際電話事業者間取引の営業担当をした後、4年間R&D部門にてウェブアプリケーション分野でエンジニアとして新規事業立上げに携わってきました。HKUSTの16ヶ月(最後の4ヶ月間、エクスチェンジで北京の清華大学経営学院)を終え、2014年1月より、クラウドホスティングサービスの開発をおこなっています。エンジニアの枠を超えて、世界で売れるプロダクトを作る、そのために必要なマネジメントを学びにMBAという選択を取りました。HKUST圧倒的なダイバーシティとアジアトップ、創立20年で活気がある、また様々な企業がアジア進出拠点としてオフィスを構える香港という地の利でHKUSTを選びました。

HKUST MBAに来てよかったこと

圧倒的なダイバーシティ - 5人で組めば5つの国籍を持つチームがすぐ出来上がります。バックグラウンドやカルチャー、仕事の進め方の違いで議論が衝突することも多々。今まで経験しなかったような局面や議論をチームメイトと作って行くこと、その中でリーダーシップをとって行くこと、いろいろぶつかりながらも目標を達成したときのメンバーわかり合う喜びと達成感は、HKUST MBAの醍醐味だと感じます。
アジアフォーカス - アジアでのシニアマネジメント経験持つ教授陣も多く、例えば、元Walmart China CEOによる“Doing Business in China”など、その分野、そしてアジアでマネジメントをしてきた教授が自らの経験を元に、アジアでの事業の肝をとことん語ります。この実践に基づくマネジメントレクチャーとアジア地域のハブ、ゲートウェイとしての香港の地の利はアジアを学ぶ上でベストだと感じます。

MBA後のキャリアにどう生きてくる?

なにより自信がついたことだと感じます。MBAに来る前までは多国籍の環境で自分がリーダーシップをとれるのか、経験もなく不安でしたし、この1年間で失敗もたくさん経験しました。その中でどうやったらこれだけダイバーシティに富んだチームの中で自分がリーダーシップをとり、意図した成果を上げ、周りのモチベーションをあげられるか、実践で鍛えあげた経験は今後のキャリアでも十二分に発揮されると感じます。また、授業の中での学びに加え、香港の金融街、IT拠点、製造業が多く拠点を構える珠海デルタ、またアジア各国など、生の素材として自分が実際に足を運び、マネジメント層と議論し、見て感じた経験は、これからアジア事業に携わる上での肌感覚として地を這ったアクションをとることができるツールだと感じます。

アプリカントのみなさまへメッセージ

実務の中だけでは出会わなかった幅広い分野と世界中から集まったダイバーシティ溢れる&ハイパフォーマンスな仲間の中で、ある意味リスクフリーでたくさん失敗することができる、ということがMBAの醍醐味です。留学に向けてぜひがんばってください。HKUSTへの質問も大歓迎です。お気軽にメールください。

